

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 寺下 勝巳

	主査	准教授	神山 俊哉
審査担当者	副査	教授	秋田 弘俊
	副査	教授	山下 啓子
	副査	教授	櫻木 範明

学 位 論 文 題 名

肝内胆管癌における上皮間葉転換に関する分子の発現と臨床病理学的研究
(Studies on EMT-related molecules in intrahepatic cholangiocarcinoma.)

審査にあたり副査の秋田弘俊教授から、肝内胆管癌における ZEB1 等のバイオマーカーの研究だったが、症例数の妥当性についての質問があり、申請者は統計学的な視点からを評価していないことを説明した。生存期間に關与する多変量解析に ZEB1 が抽出されないことについて検討方法の質問に対し、申請者は ZEB1 高発現群が K-M 法で有意に予後不良にもかかわらず抽出されなかったことは、関連性の強い因子が他に多数あることが原因と回答した。さらに、バイオマーカーを同定することの意義についての質問には分子標的剤の開発や予後評価の指標として役立つ可能性について回答した。

副査の櫻木範明教授から、幹細胞マーカーの CD44 と EMT との関係についての質問があり、申請者は、CD44 は EMT とは直接の関連性はなさそうだが、更なる検討が必要と回答した。

副査の山下啓子教授から、それぞれの分子、特に ZEB1 と CD44 の二群化の方法について質問があった。山下教授は、二群化の方法は連続変数ではない score の集団を median で分けるより、Mann-Whitney 検定で検討することを質問された。それに対し申請者は、検討したいと回答した。

最後に主査の神山俊哉准教授から、EMT 関連の代表的マーカーである N-cadherin の検討について質問があったが、今回の研究でも他の分子と同様に検討したが、先行論文とは異なった結果であるため、さらなる症例数の積み重ねが必要であると回答した。

この論文は肝内胆管癌という比較的稀な腫瘍を先行論文にはない大多数を用いた検討であり、2014 年肝臓総会の肝内胆管癌部門の発表でも高く評価された。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判断した。